

あおもりノーリフティングケア推進事業 実践状況報告ポスター

特別養護老人ホーム きりん館



社会福祉法人
内潟療護園



施設紹介 社会福祉法人内潟療護園

ユニット型特別養護老人ホームきりん館

入所定員：29名 短期入所定員：6名 平均要介護度：3.7

職員数：30名 施設長1名、ケアマネ1名、生活相談員1名、主任1名、ユニットリーダー2名、看護師4名（パート含む）、介護支援員15名

栄養士1名、調理員4名、清掃員1名 平均年齢：45歳 法人職員数 167名

その他福祉サービス 介護保険 相談センター、デイサービスセンター、ホームヘルプセンター、包括支援センター（委託）各1カ所

障害者総合支援法 障がい者支援施設 内潟療護園、第2うちがた 2施設

障がい者生活介護（通所）2カ所、障がい者相談センター1カ所

障がい者福祉ホーム（アパート）、障がい者ケア付き住宅（グループホーム）

青森県中泊町にある当法人は昭和55年に設立し、特別養護老人ホームきりん館は平成29年に開設しました。

詳細については、特別養護老人ホームきりん館と検索し、ホームページをご覧ください。ブログもやっていますので、ぜひクリックしてください。

ノーリフティングケアの経過

R3年度あおもりノーリフティングケア推進事業へ参加
 マネジメント研修にて様々なことを学びながら、年間を通してノーリフティングケア
 に取り組み・実践した
 R4年度もマネジメント研修に参加させていただき、当施設での取り組み方について
 さらに良い方法はないか、ステップアップできるよう猛勉強中

	組織体制	教育	アセスメント・ プランニング	リスクマネジメント	福祉用具	健康管理
R3、5月	委員会設立 担当教育の決定	ノーリフトケア実践マニュアル STEP1～3、理解度チェック				腰痛調査実施 腰痛検査実施
R3、6月		基本動作介助、シート・グローブ 使い方、技術チェック	全利用者プラン見直し 計画	リスクマネジメント体 制作り	福祉用具使用一 覧表作成	
R3、7～9月	マニュアル作成	トランスファーボード使い方、技 術チェック	1ユニットずつ プラン見直し開始	マニュアル作成 ヒヤリハット抽出方法 等を周知 抽出されたリスクはP DCAサイクルで対応		マニュアル作成
R3、10～11月		スタンディングリフト体験 教育体制作り マニュアル作成	対象利用者プラン完成 マニュアル作成	ヒヤリハット抽出方法 に問題はないか検討	福祉用具管理一 覧表作成 マニュアル作成	マニュアル作成 腰痛検査実施 腰痛調査実施
R3、12月		吊り上げ式リフト体験 教育担当は技術再確認				
R4、1～2月	リーダー研修や報告会へむけて準備					

ノーリフティングケア推進宣言書

きりん館は、「利用者・職員に負担の少ない看
 護・介護」を進め、職員みんなが笑顔で働きやす
 い環境をつくるために、全職員にてノーリフティング
 ケアを推進して行くことをここに宣言します。

令和3年4月20日

代表氏名
 社会福祉法人内湯療護園
 特別養護老人ホーム きりん館

施設長 三上 信 行



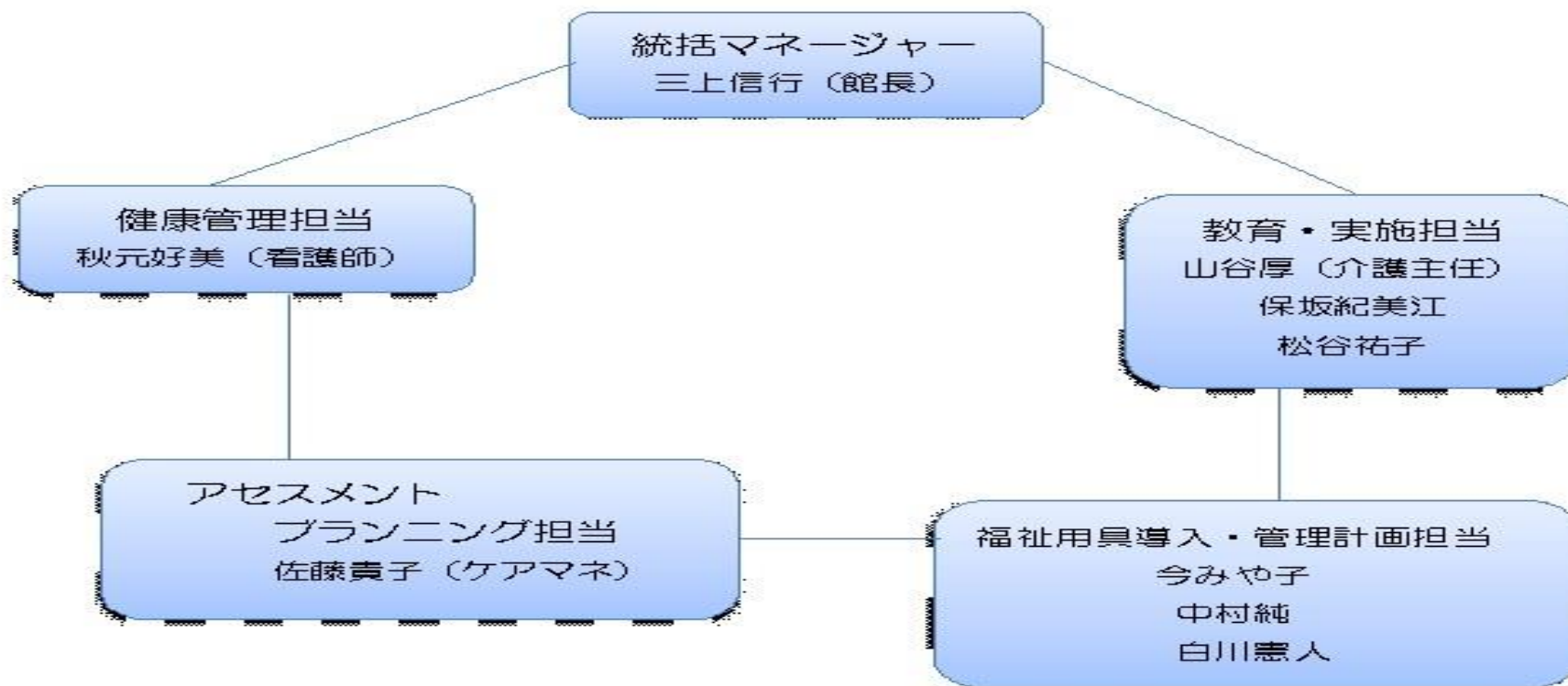
ノーリフティング体制

ノーリフティングケア組織体制

ノーリフティングケア推進委員会の目的

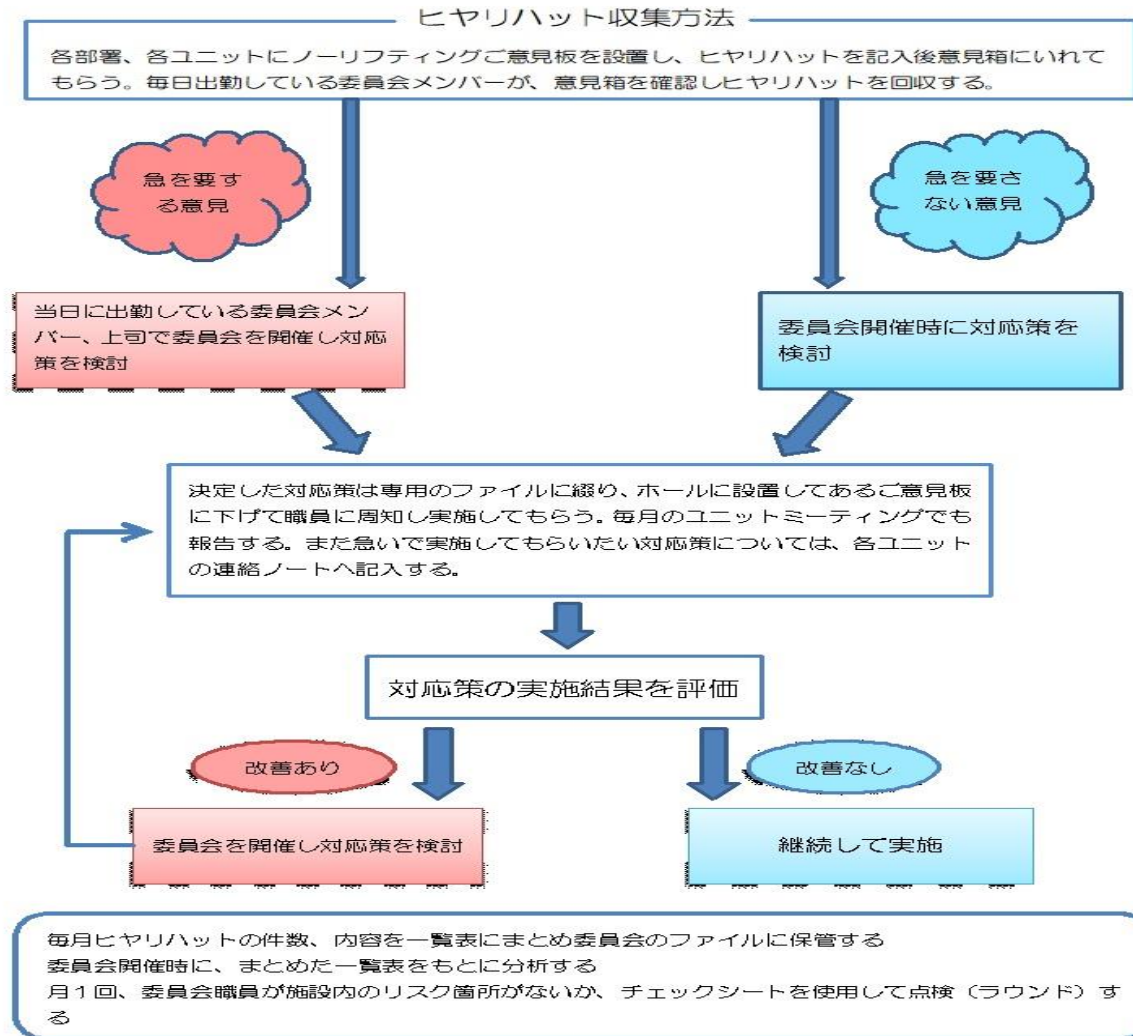
働いている職員が笑顔で安全・安心で働きやすい職場環境を作ること

ノーリフティングケア推進委員会組織図

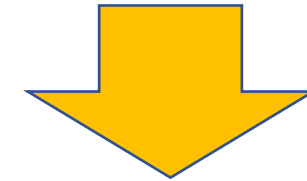


リスクマネジメント体制

リスクマネジメント体制



【例】お風呂場のシャンプー等の備品が床に置いてあるので、毎回しゃがんだり、中腰姿勢になってしまい負担です。



アセスメント・プランニング体制

- | | |
|-----------|--|
| ①入所申込 | 入所判定会議などでカンファレンス実施
事前情報を基に多職種にて介助方法等検討、
プランの方向性を決定する（暫定プラン） |
| ②入所決定 | 入所契約時にノーリフティングケア実施の説明を
本人・家族へ行い、同意書にて了承を得る
（ノーリフティングケア同意書使用） |
| ③入所後 | 入所から2週間以内にケアマネがノーリフト対象者
アセスメントシートを使用しアセスメント実施する
同時にユニット職員が要介護者別リスクチェックシ
ートを使用し、対象者のケアに対してどれだけのリ
スクがあるかを把握する |
| ④ケアプラン作成 | 全ての情報を収集後、多職種にて担当者会議実施
ケアプラン完成後、本人・家族へ説明し了承を得
る
ケアプランを実施 |
| ⑤ケアプラン実施後 | ケアプラン実施から2～3週間を目途にモニタリ
ング実施
新しいニーズ等が発生していないか情報収集
変更がある場合はカンファレンス実施し再度プラン作成
変更がない場合はプラン継続
半年に1回、また状態変化時はモニタリング・カンファ
レンス実施 |


周知方法：各ユニットに以下の書類を
まとめたファイルを準備

- ・ケアプラン
- ・ノーリフト対象者アセス
メントシート
- ・担当者会議録
- ・24Hシートの個別ファ
イル

福祉用具管理体制

現在使用している福祉用具

- フレックスボード 3枚
- ラクラックス（ラージ）1枚
- ラクラックス（ミニ）1枚
- 移座えもん 2枚
- マスターグライド（M）1枚
- スライディングシート黒 6枚
- ラクラックススライドユニット 1枚
- ストレッチャー（電動）1台
- ストレッチャー（手動）1台
- ターンテーブル 2台
- 3モーター式電動ベッド 28台
- 2モーター式電動ベッド 2台
- 手動式ベッド 1台
- エアマット 11台
- センサーマット 15枚

スライディングボード				
品名	メーカー	購入日	購入先	連絡先 担当
フレックスボード 3台	ラックヘルスケア			
	使用方法	寝た状態のまま、ベッド⇄ストレッチャー、ベッド、リクライニング チルト車いすへの移乗が出来ます。		
	使用上の注意	・2人介助での使用を前提に開発された製品。 ・防水使用ではありません。 入浴場面などでは、濡れないように配慮する。（体をよく拭く、バスタオルを敷くなど） ・利用できる移乗間距離は20cm以内です。それ以上の距離では使用しないで下さい。 ・最大利用者体重は160kgまでです。それ以上の方には使用しないで下さい。		

○上記のように現在使用している福祉用具の使用方法が明記されたマニュアルを作成

○メンテナンスに関しては、毎月委員会の福祉用具担当が、右図の管理表を使用しチェック

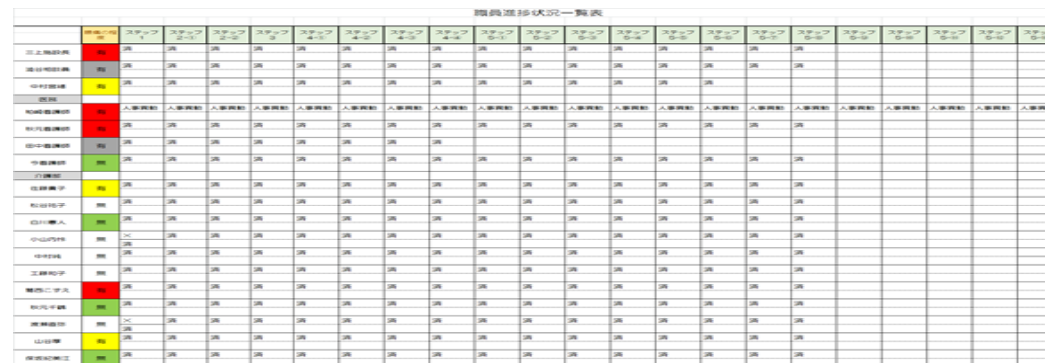
福祉用具管理一覧表

スライディングシート スライディングボード ターンテーブル ストレッチャー									
	物品項目	保管場所	使用者	購入日	状態			最終 チェッ ク	備考
					良	問題 あり	使用 不可		
1	フレックスボード①	102号室		2019年10月	✓				
2	フレックスボード②	208号室		2019年10月	✓				
3	フレックスボード③	310号室		2019年10月	✓				
4	ラクラックス（ラージ）防水①	1号館倉庫			✓				
5	ラクラックス（ミニロング）防水①	2号館脱衣所			✓				
6	移座えもん①	108号室			✓				
7	移座えもん②	303号室			✓				
8	マスターグライド（M）①	308号室			✓				
9	スライディングシート黒①	102号室			✓				
10	スライディングシート黒②	208号室			✓				
11	スライディングシート黒③	303号室			✓				
12	スライディングシート黒④	310号室			✓				

現在足りない福祉用具（跳ね上げ式車椅子、リクライニング車椅子）に関しては、福祉用具担当と購入する車椅子を検討中

教育体制

- 5月：ノーフティングケアの必要性和目的を理解するためにマニュアル作成
マニュアル、テキストを使用し少人数のミーティング実施、理解度チェック
身体の使い方ユニットミーティング等を活用し周知、習得
- 6月：福祉用具を使用した介助方法の伝達
教育担当が技術習得後、テキストやDVDを使用し少人数での研修会を実施
テキストの技術チェックを使用し習得度をチェックし、不合格だった場合は再研修という形を年間を通して繰り返し実施
右の進捗状況一覧表を作成し管理した



現状の体制（新人研修、中途者含む）

1段階	●ノーフトケアについて（座学） ノーフトケア実践マニュアルのテキスト使用
1～2週目	STEP1～3について教育担当が実施 座学後、理解度チェックテスト実施 正答率100%になるまで再指導・再テスト実施


2段階	3週目	STEP4①～④	実技技術指導後 技術・理解度チェック実施 ※技術教育マニュアルDVD貸し出し
	4週目	STEP5①～⑤	
	5週目	STEP5⑥～⑧	
	6週目	STEP5⑨～⑫	

3段階	●ユニットでのOJT教育
8週目～	●個別マニュアルに沿って技術指導（教育担当 or ユニットリーダー） ●技術テスト合格後、ユニットで実践

在籍職員教育体制

- 毎年5月頃、ノーフ強化月間を設定
 - ・委員会からの復習の呼びかけ（朝の引き継ぎ時等）
 - ・技術教育マニュアルDVD貸し出し
 - ・実践マニュアルのチェック項目を使用し小グループで技術チェック
ビデオ撮影をし自分の動きやくせ等を確認
（勤務時間内で実施できるように教育担当で計画）
 - ・ノーフトケア関係の外部研修へ参加

実技指導者・リーダー養成

- ノーフトケアコーディネーターより教育担当（スキルアップ希望者も含）へ実技研修実施

 - ・教育担当間で指導方法・技術面を再確認し、指導方法の統一を図る（定期的に実施）
 - ・利用者個別対応マニュアルをチェックし実施内容の見直し、統一を図る
 - ・コーディネーター養成講座受講希望者は研修へ参加

マニュアル



腰痛予防マニュアルを作成し、各職員へ配布

【内容】

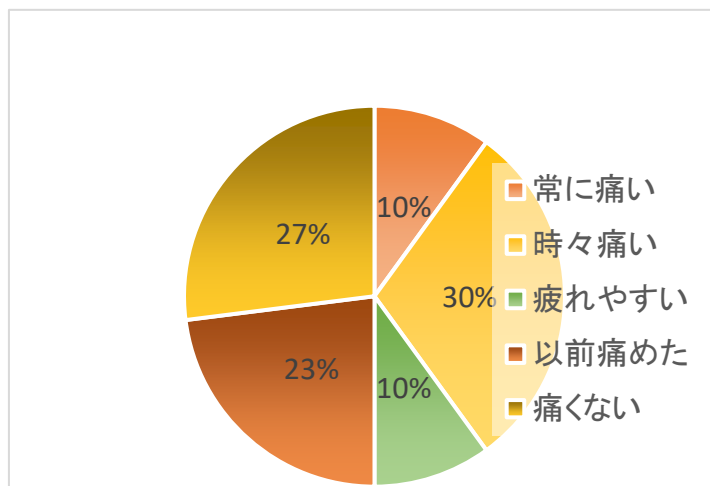
- 委員会組織図・目的
- 健康管理
- 腰痛に結びつく介護業務
- 介護業務における腰痛予防対策の基本
- 身体の使い方

福祉用具管理や教育マニュアル等はPCの共有ドキュメントに置いておき、委員会メンバーが新しい情報を更新し、常に最新の情報を全職員が確認できる状態にしている

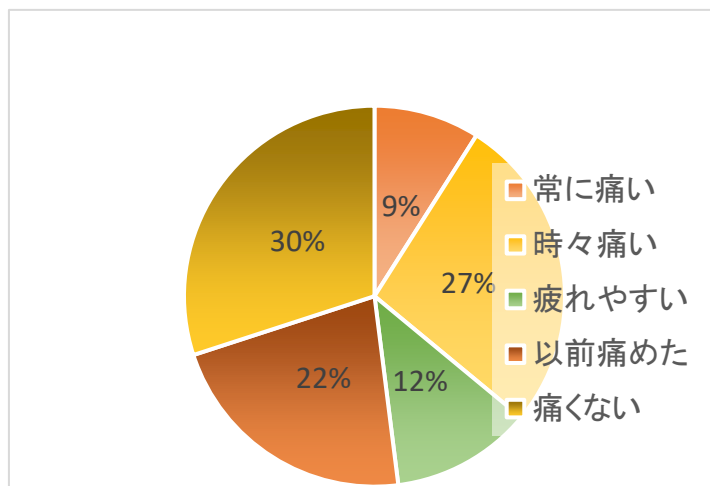
また使用している福祉用具の使い方(写真付き)を、居室へ掲示する予定だったが、順調ではないため早急にすすめていきたい

ノーリフティングケア導入後の効果

腰痛調査（R3／5月実施）



腰痛調査（R4／4月実施）



・ノーリフティングケア導入開始前の腰痛調査と導入後の腰痛調査の結果では、劇的ではないが効果がみられている。時間はかかるかもしれないが、少しずつでも確実に腰痛やその他の負担を減らしていけるように取り組んでいきたい。

ノーリフティングケア導入後の職員の感想

- 乗降時にフレックスボードを使用することにより、腰痛だけでなく、腕や指関節の負担が減った
- ゴミ捨ての時、台車を使用することで袋を持ち上げることがなくなり体が楽になった
- ストレッチを行うことで、事務職員も腰と肩の痛みが軽減された
- 体位変換時にスライディングシートを使用するととても楽にできるので、枚数を増やしてもらいたい。
- 利用者の身体機能にあわせて、どの福祉用具を使用するか等、委員会以外の職員からも積極的に意見がでるようになった

今後の課題

- 必要な福祉用具や備品が足りない
→なぜ必要なのか、根拠を明確にした導入計画をたてる
- 適切な福祉用具の選定や活用の知識・技術不足
→どの場面で何の福祉用具が必要なのか等
職員だけでは限界があるので、専門の外部講師また福祉用具取り扱い業者へ依頼し勉強会など実施
- 職員間で技術にばらつきがみられている
→用具の取り扱いに慣れ応用しているのであれば問題ないが、いわゆる自分流になり腰痛予防ということが薄れてきているように感じるため、今一度復習の時間を作り指導する
- 法人内の他部署への普及活動
→同法人全体でノーリフティングケアに取り組めるよう、学び実践した事業内容をプレゼンし普及していく